

稲・大豆作情報 (NO. 4)

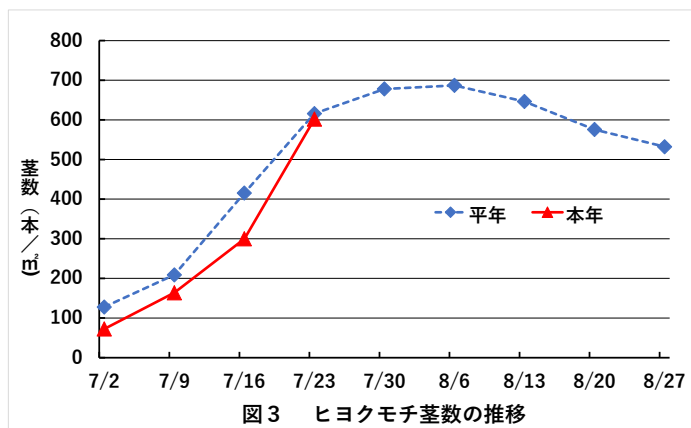
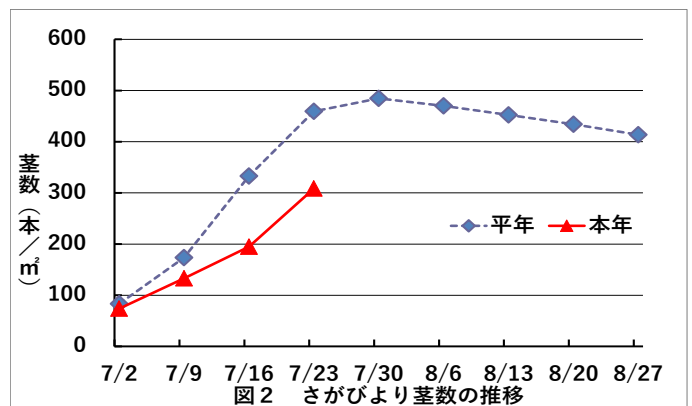
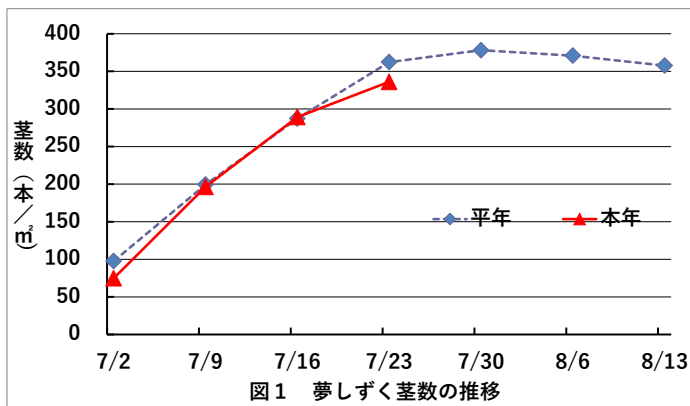
1. 水稻作況情報田の生育概況 (7月23日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 c m	茎 数 本/m ²	葉 齢	葉 色 SPAD	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 18.0株/m ²	本 年	66.1	336	10.9	41.8	7月4半旬は、気温はやや高く(+1.5℃)、小雨(24%)、多照(115%)で経過している。 ◇平年と比べ、 草丈:「夢しずく」はやや高く、「さがびより」は低く、「ヒヨクモチ」はやや低い。 茎数:「夢しずく」はやや少なく、「さがびより」は少なく、「ヒヨクモチ」は平年並み。 葉齢:「夢しずく」はやや進んでおり、「さがびより」はやや遅れており、「ヒヨクモチ」は平年並み。 葉色:「夢しずく」は平年より濃く、「さがびより」は淡く、「ヒヨクモチ」は濃い。
		平 年	63.6	362	10.4	40.9	
		平年比	(104)	(93)	(0.5)	(0.9)	
さがびより 小城市芦刈町	6/22 18.5株/m ²	本 年	47.3	309	9.7	39.2	
		平 年	54.8	459	10.6	40.4	
		平年比	(86)	(67)	(-0.9)	(-1.2)	
ヒヨクモチ 神崎市神埼町	6/21 19.0株/m ²	本 年	42.8	604	11.0	43.4	
		平 年	45.6	616	10.8	40.2	
		平年比	(94)	(98)	(0.2)	(3.2)	

注1) 各品種 前作: 麦 注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる

注3) 平年値は、過去10年間(H25~R5)の平均値(さがびよりに関しては、R1年を除くH25~R5年の平均値)

注4) ヒヨクモチは今回神埼町のデータを用いています



◆農業試験研究センター米づくり情報4号 7月23日(抜粋)

移植日	項目		草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢 L	葉色 SPAD	概況 (平年と比較して)
	年次	品種					
6月18日	夢しずく	本年	65.6	335	10.5	40.7	[気象] 7月16日～22日まで ◆平均気温…平年より1.8℃高い ◆日照時間…長い(平年比126%) ◆降水量…少ない(平年比20%) [生育] ◆草丈 全ての品種で高い。 ◆茎数 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「さがびより」で 少なく、「ヒヨクモチ」でやや多い。 ◆葉齢 「夢しずく」「さがびより」「ヒヨクモチ」で 平年並み、「ヒノヒカリ」はやや多い。 ◆葉色 「夢しずく」はやや濃い、「ヒノヒカリ」は 濃い、「さがびより」「ヒヨクモチ」で 平年並み。
		平年	59.4	410	10.4	39.1	
	平年比(差)		110	82	+0.1	+1.6	
	ヒノヒカリ	本年	60.2	480	10.8	43.7	
平年		53.7	560	10.5	41.1		
平年比(差)		112	86	+0.3	+2.6		
6月20日	さがびより	本年	57.2	418	10.3	41.6	◆葉色 「夢しずく」はやや濃い、「ヒノヒカリ」は 濃い、「さがびより」「ヒヨクモチ」で 平年並み。
		平年	49.7	502	10.4	41.2	
	平年比(差)		115	83	-0.1	+0.4	
	ヒヨクモチ	本年	52.1	842	10.9	43.2	
平年		47.7	816	11.0	42.9		
平年比(差)		109	103	-0.1	+0.3		
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7月17日以降晴天が続き、日照時間が長くなったものの、草丈は各品種とも伸長(15cm程度)した。「夢しずく」で分けつの発生が鈍化した、「ヒヨクモチ」は二次分けつの発生が盛んで、平年並みの茎数が確保されている。 ○ 「夢しずく」の中干しは、茎数が少ない圃場が多いと思われるため、極端に強い中干しとはせず、幼穂形成期(農試平年7/28)までに中干しを終える。 ○ 有効茎が確保された「ヒノヒカリ」「さがびより」「ヒヨクモチ」等の中晩生品種は、速やかに中干しを実施する。 						

注1) 耕種概要等は稲・大豆作情報第1号参照。

2. 水稻における今後の管理

○水管理 ～ 生育ステージに応じた適正な水管理を行う ～

「夢しずく」

- ・早植えの「夢しずく」(5月下旬～6月上旬移植)は、幼穂形成期を、普通期の「夢しずく」(6月中旬移植)は、間もなく幼穂形成期を迎える。
- ・幼穂形成期を迎えた圃場は中干しを終え、穂ばらみ期まで「間断冠水(2日湛水3日落水)」を実施する。その後、穂揃い期まで浅水状態で湛水を保つ。

「ヒノヒカリ」、「さがびより」、「ヒヨクモチ」

- ・1株あたり茎数が20本以上確保できた圃場は、下の表1を参考に落水し「中干し」を実施する。
- ・1株あたり茎数が20本以上確保できていない圃場では、分けつ確保のため、浅水管理を基本に行う。
- ・幼穂形成期は、中生品種で8月上旬頃、晩生品種で8月中旬頃となるため、移植が遅れた圃場などでも、遅くとも8月上旬までは中干しを終える。

表1. 品種毎の中干し時期(圃場の生育状況に合わせて実施しましょう)

品種名	中干しの時期	中干しの程度
「ヒノヒカリ」 「ヒヨクモチ」	7月20日～25日頃	やや強め 土に約1cmヒビが入る程度(白乾手前)
「さがびより」		弱め 土は黒く軽くヒビが入る程度

※近年、高温・乾燥条件で予想以上に土壌の乾燥が進み、ひび割れ・白乾している圃場が見受けられる。天候や風により中干しの期間は異なるので干しすぎないように注意する。

○穂肥 ～ 散布時は入水し、湛水状態で施用 ～

「夢しずく」

- ・普通期の「夢しずく」（6月中旬移植）では、間もなく幼穂形成期を迎える。
- ・施用が遅れないように表2の穂肥診断基準（草丈・葉色・幼穂長）に基づき、穂肥を施用する。
- ・いもち病が発生している圃場は、穂肥施用によりいもち病の発生を助長する可能性があるため施用にあたっては十分注意する。

表2. 「夢しずく」穂肥診断基準

幼穂形成始期の草丈	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量	
	群 落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 kg/10a	BB602 kg/10a
73cm以下	3.0以下	34以下	20～22日	1mm	3.0	20.0
	3.0～3.5	34～38	18～20日	2mm	3.0	20.0
	3.5～3.8	38～39	15～14日	10-15mm	1.6	10.0
	3.8以上	40以上	晩限は止葉抽出終了まで		1.0以下	6.0
73～79cm	3.0～3.5	34～38	18～20日	2mm	1.6	10.0
	3.5～3.8	38～39	14～15日	10-15mm	1.0	6.0
	3.8以上	40以上	施 用 し ない			
80cm以上	原則として施用しない					

※草丈は、幼穂の伸長程度により幼穂形成期（1mm）を基点に、前後1日あたり1cm増減する。

※出穂前15日以降の穂肥は、玄米タンパク値を上昇させるので施用しない。

「ヒノヒカリ」

- ・「ヒノヒカリ」は、8月5日頃に幼穂形成期を迎え、穂肥施用時期を迎える見込みです。
- ・施用時期が遅れないように表3の穂肥診断基準（草丈・葉色・幼穂長）に基づき、穂肥を施用する。

★「ヒノヒカリ」の穂肥施用のポイント

- ①出穂前18～20日（幼穂の長さ3～5mm）に施用。
- ②草丈が80cm以上で葉色が濃い（SPAD値40以上）場合は施用しない。
- ③草丈が80cm以下で、葉色が薄い（SPAD値34以下）場合は、2日程度早める。

表3. 「ヒノヒカリ」穂肥診断基準

幼穂形成始期の草丈	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量	
	群 落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 kg/10a	BB602 kg/10a
80cm以下	3.0以下	34以下	20～24日	1～2mm	3.0	20.0
	3.0～3.5	34～38	18～20日	3～5mm	3.0	20.0
	3.5～3.8	38～39	16～18日	5～15mm	2.0	12.5
	3.8以上	40以上	—	15～30mm	—	施用しない
80cm以上	3.0～3.5	34～38	18～20日	3～5mm	2.0	12.5
	3.5～3.8	38～39	16～18日	5～15mm	1.5	10.0
	3.8以上	40以上	—	15～30mm	—	施用しない

※隣接圃場が「ヒヨクモチ」だと葉色が淡く見えますので留意してください。

○雑草防除 ～雑草が発生してきた圃場は、早めの対策を～

- ・除草剤が散布できなかった圃場や除草剤処理後に田面が露出した圃場などでは、雑草の発生が見られる。放置するとヒエや広葉雑草が繁茂し、薬剤による雑草防除が困難となるため、雑草の生育（葉齢）に注意し中後期除草剤による早めの対策を講じる。

対象	除草剤名	使用時期	備考
ヒエ類	クリンチャー I 粒剤	移植後 7 日～ビエ 4L 但し、収穫 30 日前まで	湛水散布（3～4 日は湛水）
	クリンチャー EW	移植後 20 日～ビエ 6L 但し、収穫 30 日前まで	落水散布。展着剤加用。
	ヒエクリーン I 粒剤	移植後 15 日～ビエ 4L 但し、収穫 45 日前まで	湛水散布（3～4 日は湛水）
広葉雑草	バサグラン粒剤	移植後 15 日～55 日 但し収穫 60 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低 3 日間入落水しない。
	バサグラン液剤	移植後 15 日～55 日 但し収穫 50 日前まで	高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。
ヒエ類および広葉雑草	クリンチャーバス ME 液剤	移植後 15 日～ビエ 5L 但し収穫 50 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低 3 日間入落水しない。 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。（展着剤無加用）
	ハイカット I 粒剤	移植後 15 日～ビエ 3.5L 但し、収穫 60 日前まで	湛水散布（3～4 日は湛水）
	フォローアップ I 粒剤	移植後 15 日～ビエ 5L （稲 4 葉期以降） 但し、収穫 60 日前まで	湛水散布（3～5 日は湛水）
	ワイドアタック SC	移植後 20 日～ビエ 6L （稲 5 葉期以降） 但し、収穫 30 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。（展着剤無加用）

○病害虫情報（発生および防除）

- ・梅雨明けと同時にかなりの高温が続く見込みであり、高温・少雨の条件下では害虫の発生が多くなるため、今後の発生状況を確認し、適期防除を実施する。

①トビイロウンカ

- ・7月24日現在、ウンカ類（セジロウンカ、トビイロウンカ）は、梅雨の前線に伴う飛来（6/23～、7/1～、7/10～）が確認されている。
- ・特に、7/1に、トビイロウンカの誘利数が多くなっており、佐賀市でも7/3に確認されている。
- ・一部の圃場ではウンカ類の幼虫（セジロウンカ第一世代の幼虫が主体）が確認されている。
- ・ウンカ類の飛来量は次ページのとおりとなっており、トビイロウンカの発生予測は、図1のとおり。

②コブノメイガ

- ・県内のライトトラップで断続的に誘殺（6/23～、7/12～）されている。
- ・一部の圃場では成虫が確認されている。
- ・上記の両害虫とも、品種別に発生状況は異なると考えられるため発生状況を確認し、適期防除に努める。
- ・今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を、農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。

海外飛来性害虫情報第5号(ウンカ類-コブノメイガのトラップ捕獲状況)(令和6年7月10日更新)

月	日	トビロウカ					セジロウカ					コブノメイガ						
		佐賀県		長崎県			佐賀県		長崎県			佐賀県		佐賀県			長崎県	
		佐賀市 ネット トラップ	嬉野市 ライト トラップ	諫早市 ライト トラップ	諫早市 ネット トラップA	諫早市 ネット トラップB	佐賀市 ネット トラップ	嬉野市 ライト トラップ	諫早市 ライト トラップ	諫早市 ネット トラップA	諫早市 ネット トラップB	佐賀市 フェロモン トラップA	佐賀市 フェロモン トラップB	神埼市 粘着トラップ (20W蛍 光灯)	伊万里市 粘着トラップ (20W蛍 光灯)	白石町 粘着トラップ (20W蛍 光灯)	武雄市 粘着トラップ (20W蛍 光灯)	諫早市 フェロモン トラップA
19日	0	1	0	0	0	1	6	0	0	0							0	0
20日	0	3	0	0	0	0	10	2	0	0							0	0
21日	0	8	0	0	0	0	25	0	0	0							4	0
22日	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	欠測	0	0	1	0	0
23日	0	24	0	0	0	25	66	8	1	1							10	0
24日	0	14	0	0	0	13	92	5	0	2							18	0
25日	0	1	0	0	0	0	148	1	0	0	0	0	3	0	0	3	25	3
26日	0	9	0	0	0	0	187	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0
27日	0	3	0	0	0	2	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1
28日	0	7	0	0	0	0	30	4	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0
29日	0	4	0	0	0	3	31	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
30日	0	13	0	2	0	15	5	0	3	0							2	0
7月	1日	0	229	0	0	0	14	88	0	1	0						2	3
	2日	0	41	0	0	0	0	97	0	0	0						4	2
	3日	1	欠測	0	0	0	1	欠測	0	0	0						2	2
	4日	0	5	0	0	0	0	3	0	0	0						2	0
	5日	0	0	0	0	0	5	9	0	1	0						2	0
	6日	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	1	2	1
	7日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0						1	0
	8日	0	1	0	0	0	2	1	2	0	0						0	0
	9日	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0				欠測	0	2	0
	10日	0	2	0	0	0	1	252	1	2	0						0	1
	11日			0	0				106	0	0						0	0
	12日			0	0				33								1	1
	13日		3	0	0				933							欠測	13	0
	14日			0	0				232								0	0
	15日			0	0				70								0	0
				0	0				17								1	1

注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査(回収日で集計)。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。
7月11~15日の嬉野ライトトラップは、装置の不具合により5日間の合算値。
注2)コブノメイガ:神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。
※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病虫害発生予察室提供。

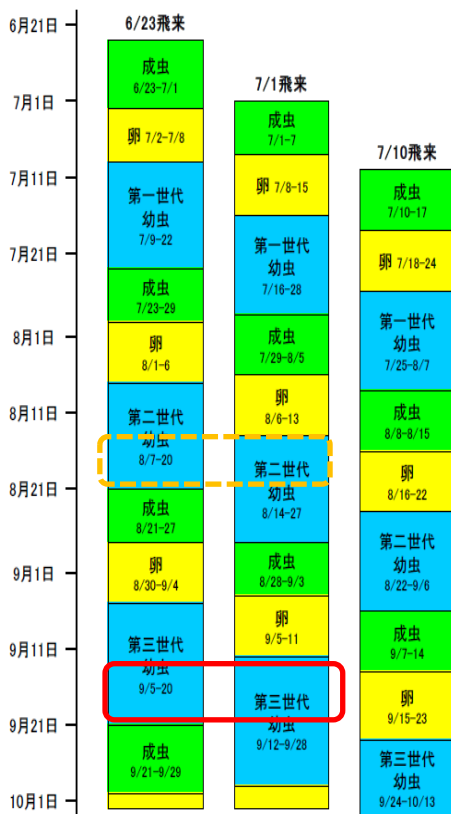


図1 トビロウカ各世代の発生予測(第2版、2024年7月19日作成)

暫定防除時期
1回目 8/14~8/20
2回目 9/12~9/20

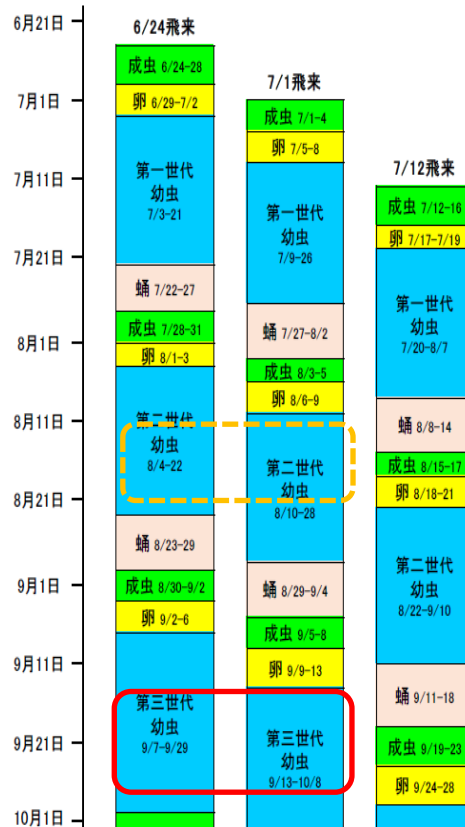


図2 コブノメイガ各世代の発生予測(第2版、2024年7月19日作成)

暫定防除時期
1回目 8/10~8/21
2回目 9/13~9/27

3. 大豆における今後の管理

1) 大豆の生育状況

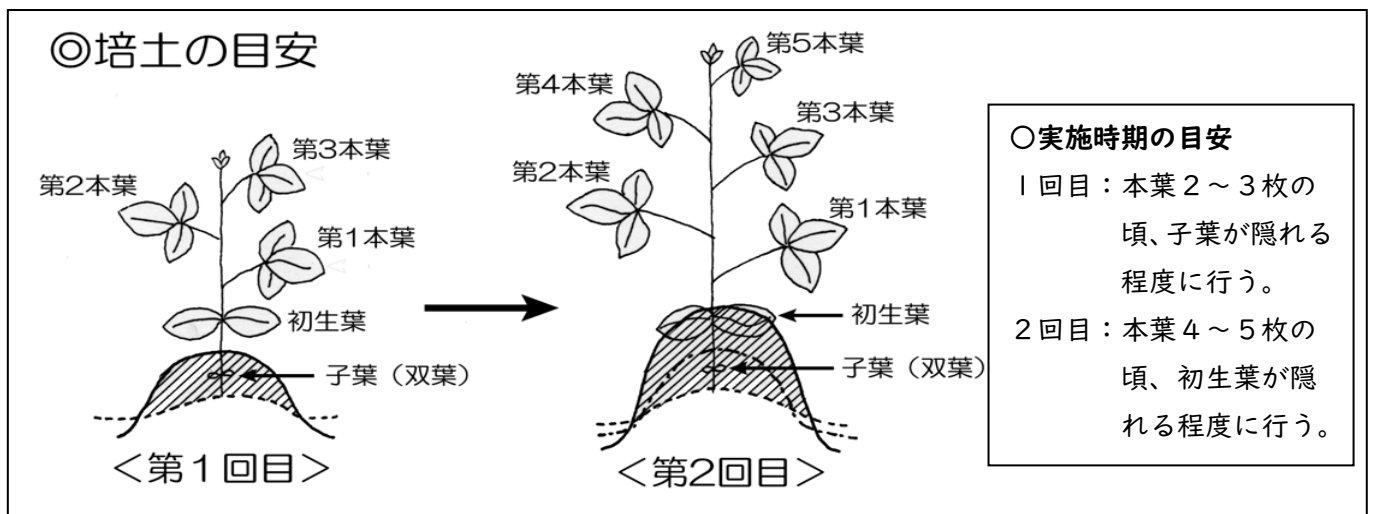
7月上旬頃、梅雨の晴れ間に播種された一部の圃場では、本葉2～3葉程度となっていますが、多くの圃場で播種作業は7月19日以降となっており、播種深と土壤水分が適正な状況で播種された圃場では間もなく出芽期を迎えます。

2) 今後の管理

○中耕・培土の実施

- ・7月上旬播種：間もなく1回目の培土時期を迎えます。本葉が3枚開いているのを確認したら子葉が隠れる程度まで1回目の培土を行ってください。

特に、降雨等で除草剤の散布ができなかった圃場では、早めの中耕培土で雑草対策を行いましょう。



○播種・再播種

- ・種子消毒：高温条件で播種した大豆は、発芽の遅れや、土中で種子が腐り発芽・苗立ちが劣りやすい。種子消毒（クルザーMAXX、キヒゲンR2フロアブル）等を徹底し発芽率向上に努める。

・播種深度：

播種後に晴天が続く場合や、土壤が乾燥気味の場合 → 4～5cm前後の深めに播種かつ鎮圧する
 播種後2～3日以内に降雨が予想される場合 → 2cm程度の浅めに播種、鎮圧はしない。

- ・播種量：7月中旬以降の播種は生育量の確保が難しくなるため、播種時期に適した栽植本数を確保する。

播種時期 (月/日)	栽植本数 (㎡当り)	栽植様式(例) (条数)条間×株間×1株本数	播種量 (/10a)	窒素施肥量 (/10a)
7/16～7/25	18本	(2条)75cm×15cm×2本	5～6kg	—
	20本	(3条)50cm×20cm×2本		
7/26～7/31	24本	(2条)75cm×11cm×2本	7～8kg	4～6kg
	27本	(3条)50cm×15cm×2本		

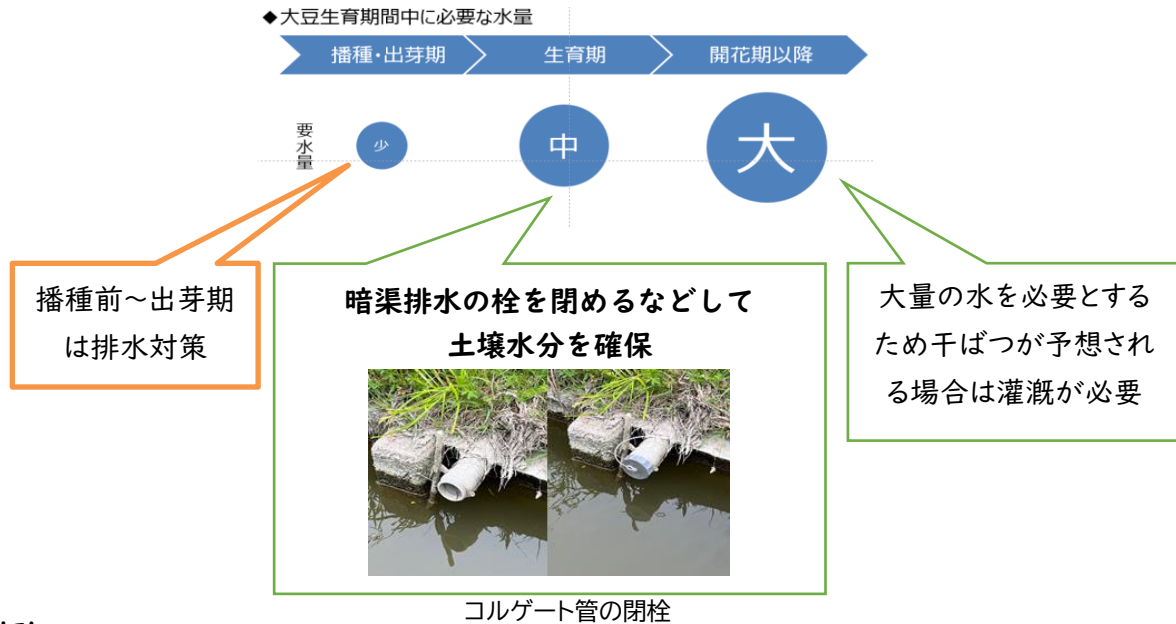
※7/26以降に播種を行う地力が高くない圃場は、窒素成分で4kg/10aの基肥施用を検討する。

◎ 基肥の施用例 (kg/10a)

硫安の場合 → 20kg 尿素の場合 → 10kg

○干ばつ対策

・梅雨明け後に高温・乾燥が続く予報の場合は、コルゲート管の閉栓が土壤水分確保に有効である。



○雑草防除

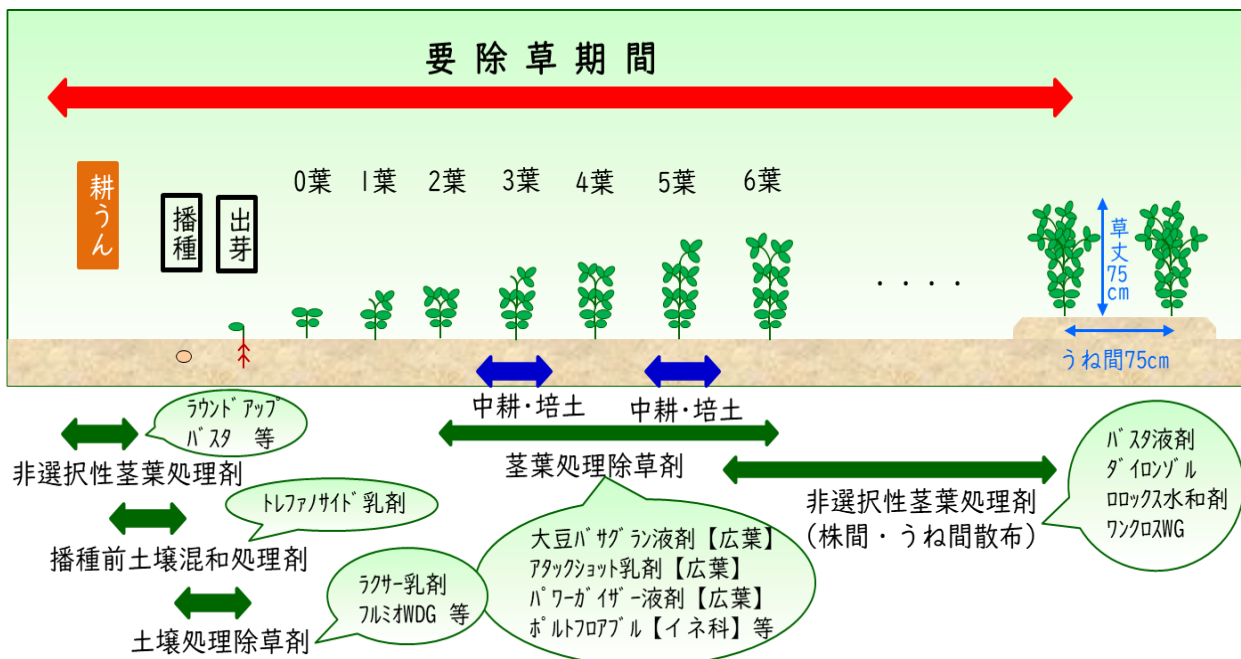
播種前) 「ラウンドアップ」「プリグロックス」など茎葉処理剤の散布において、風の強い日の散布は周辺水稻へ飛散する危険が大きいため必ず避ける。(場合によっては枯死まで至る)

播種直後) 土壤処理剤を散布し、雑草防除を行う。特に、近年問題となっているホオズキの発生が多い圃場では、「ラクサー乳剤」「フルミオ WGD」が効果的である。播種直後の散布でも隣接圃場の水稻へドリフト防止のため風速と風向きに注意し、風が強い日には散布しない。

※アサガオは、多発すると大豆の作付け自体が困難になるため、見つけ次第手で抜き取る。

※すでにアサガオ類が多発している圃場では、トレファノサイド乳剤の全面土壌混和处理(播種前に 200 ~ 300 ml/10a 散布→速やかに荒起→播種)で密度を減らすことができるため、土壤処理剤や大豆生育期除草剤、中耕・培土と組み合わせた防除を実施する。

■除草技術と実施時期の目安



令和6年産水稻・大豆生育期間気象グラフ (アメダス：佐賀)

佐城農業振興センター

